

名古屋大学博物館 × 名古屋芸術大学 文芸・ライティングコース+リベラルアーツコース
連携プロジェクト<成果記録誌>

『草思草愛 ～アートな視点で楽しむ新しい植物観察!?!』



名古屋芸術大学の2領域2コース、そして名古屋大学博物館の三者による連携プロジェクトとして『草思草愛（そうしそうあい）』を実施しました。
本誌では、プロジェクトの成果をまとめます。

経緯について

2023年10月、名古屋大学博物館から連携の打診が名古屋芸術大学の芸術教養領域リベラルアーツコース（以降、LA）にあり、名古屋大学博物館が管理運営する、研究・教育用圃場の「野外観察園」を取り上げたプロジェクトの構想が生まれました。「野外観察園」を紹介するにあたり、クリエイティブなコンテンツが必要と考え、LAとの相性をふまえて、名古屋芸術大学デザイン領域の文芸・ライティングコース（以降、LW）へ参加を持ちかけました。こうして名古屋大学博物館、LA、LWの三者による連携プロジェクトがスタートしました。

プロジェクトは、LWの学生が「野外観察園」での体験や印象をベースに作品（コンテンツ）を制作し、LAの学生がそれを展覧会としてまとめ、「野外観察園」の魅力を伝え、興味を抱ききっかけづくりをすることを目標にすすんでいきました。



2024年

4月 プロジェクトスタート

18日 「野外観察園」と名古屋大学博物館を見学

5月

9日 LA、LW 合同で、コンテンツ案アイデア出し

16日 「野外観察園」を再見学
名古屋大学博物館へコンテンツをプレゼン

23日 コンテンツ企画書を作成
コンテンツ、ポスター、展示レイアウト、
地図の制作をすすめる

6月

20日 コンテンツ、展示パネル等完成

27日 展覧会搬入

28日 『草思草愛 第Ⅰ期』展スタート（名古屋芸術大学）

7月

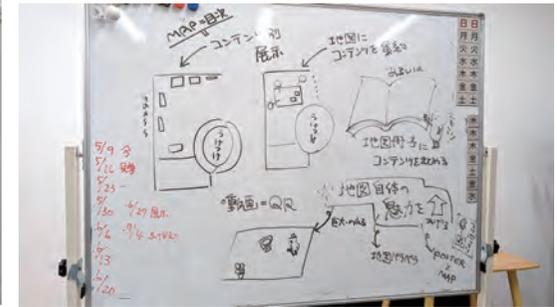
3日 『草思草愛 第Ⅰ期』展終了・搬出

19日 『草思草愛 第Ⅱ期』展スタート
（名古屋大学博物館）

8月

9日 『草思草愛 第Ⅱ期』展終了

19日 『草思草愛 第Ⅱ期』展搬出



名古屋大学博物館野外観察園について

「名古屋大学野外観察園」(以降、観察園)は、名古屋大学東山キャンパス内、南部に位置する4320㎡の緑地です。教養部生物学教室の実験圃場として1963年に造成され、研究・教育用の植物を栽培してきました。2003年度からは名古屋大学博物館が管理・運営を行っています。現在、観察園では温室内の約200種を含む、およそ800種の植物が生育しています。栽培された植物のほか、風や鳥が運んできた植物もたくさん見られます。また、これらの植物が昆虫やキツツキなどを招き、様々な生物の住み家として機能しています。なかには、とても珍しい貴重な虫や鳥の飛来もあり、植生の豊かさを物語っています。

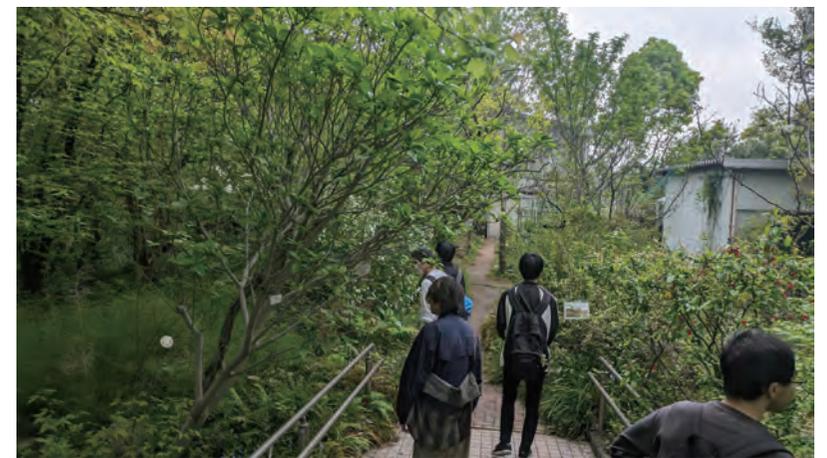
観察園は横にある体育館裏まで敷地が広がっています。その体育館裏のエリアは、現在ではブナ科植物の見本林のような様相を呈し、大学キャンパス内にあって森林浴を楽しめるような、緑深い場をつくりだしています。2003年からは標本制作にも力を入れ、300点以上の植物標本がまとめられています。

研究の他に名古屋大学の学生の自然学習の場として利用され、学芸員資格取得のための「博物館実習」や、中高生のネイチャー・ウォッチングの場としても活用されています。また、観察会や展覧会を開催し、大学外に向けても植物に関する学習機会を提供しています。

名古屋大学博物館は、名古屋大学東山キャンパス全体を「キャンパス・ミュージアム」として整備し、魅力あるキャンパスづくりを提案しています。野外観察園は、その主要施設の一つであり、学内の憩いのスペースとしての側面も持ちながら、次世代教育や社会貢献の面で大きな期待を寄せられている場として、さらなる活用の機会が望まれています。



造成当初の様子（名古屋大学博物館提供）



『草思草愛』について

観察園の魅力を外部に広く発信するために、「展覧会」という手法を選択し、そのタイトルを学生たちと協議し『草思草愛(そうしそうあい)』に決定しました。

観察園には植物(草)を思い、愛している人たちが多く関わっています。植物の研究に心血を注ぐ名古屋大学の研究者たち、あるいは観察園の担当者や博物館の学芸員は、植物を観察することの面白さを名古屋大学の学生だけではなく学外の一般の人々にも伝えるため、観察会や展覧会といった活動も積極的に行っています。そうした人たちの思いに触れた学生たちそれぞれが、自分なりに植物(草)を思い、どのような思い(愛)を持ったのか、展覧会という形で紹介することで、観察園へ興味を持ってもらいたいと考えました。

展覧会のロゴ、フライヤー、ポスターデザインはLAの学生(田島 春佳、片岡 祐介)が担当し、LWの学生の意見も取り入れながら、普段の名古屋大学博物館との展示とも趣向が異なることが伝わるような仕上がりにすることができました。とくに、LWの学生ならではのキャッチコピーの検討や、LAの学生がこれまで学んできた内容をわかりやすくするための情報整理術といったことがうまく噛み合いました。

フライヤーとポスターは、名古屋芸術大学、名古屋大学博物館、関係各所に配布・掲示されました。



展覧会タイトルロゴ

名古屋大学博物館 野外観察園 × 名古屋芸術大学 (リベラルアーツコース) × 文学部ライティングコース
連携プロジェクト

草思草愛

アートな視点で楽しむ新しい植物観察!?

第Ⅰ期 名古屋芸術大学

2024年 6月28日[金] ~
7月3日[水] (日曜日)

12時15分 ~ 18時 (入場無料 最終日17時まで)

名古屋芸術大学 Art & Design Center West Lounge
〒481-8535 北名古屋市徳重西沼65番地 西キャンパス
TEL: 0568-24-2897

名古屋芸術大学
Art & Design Center

第Ⅱ期 名古屋大学博物館

2024年 7月19日[金] ~
8月9日[金] (日・月曜日)

10時 ~ 16時 (入場無料 最終入館30分前まで)

名古屋大学博物館 エントランスホール
〒464-8601 名古屋市中千種区不老町 名古屋大学 東山キャンパス
TEL: 052-789-5767

名古屋大学博物館
Nagoya University Museum

フライヤー表 (ポスター同デザイン)

草思草愛

名古屋大学にはおよそ60年にわたり研究・教育用植物を栽培している「野外観察園」があります。1963年に教養部生物学教室の実験園場として造成され、2003年度から名古屋大学博物館が管理・運営を行い、幅広い自然教育に使われています。一方で、野外観察園の存在は「知る人ぞ知る」という面もあるため、名古屋芸術大学と連携し、その魅力を紹介するプロジェクトを立ち上げました。

参加するのは名古屋芸術大学 芸術学部、デザイン領域 文芸ライティングコースと芸術教養領域 リベラルアーツコースです。言葉と文章によるデザインによって伝える力を育む文芸ライティングコースの学生たちが、「野外観察園」から発見した魅力や面白さをベースに作品を制作し、社会と芸術をつなげる力や情報を伝達する力を養うリベラルアーツコースの学生たちが、展覧会を構成します。

思いも愛も、ほくらの目もあわせて観るところから、タイトルは「草思草愛」(そうしそあい)。野外観察園には植物(草)を思い、愛している人たちが多く関わっています。植物の研究に心血を注ぐ名古屋大学の研究者たち、あるいは野外観察園の担当者や博物館の学芸員は、植物を観察することの面白さを学生だけではなく一般の人々にも伝えるため、観察会や展覧会といった活動も積極的に行っています。そうした人たちの思いに触れた学生が、それぞれに自分なりに植物(草)を思い、どのような思い(愛)を持ったのか、展覧会という形で紹介することを考えました。

- 「知識なる林人より」(しんあいなるりんじんより) 野外観察園の植物のそれぞれの特徴を生かした擬人化キャラクターを生み出します。
- 「草っ食パッド」(くっくぱっど) 野外観察園の植物で食べられる「リスナー」に置かれている野原とは違う、野原を食べるといふ点にフォーカスし、実際に野外観察園から植物を採取し、調理して食べるチャレンジをします。お弁当もって行っています。
- 「植物名付け職人への道」 植物の名前って不思議だなと思ったことはありませんか? もんな疑問からスタートし、植物をよく観察して形や特徴から名前を考えてみる、参加型の作品です。
- 「草ハフッパ」 野外観察園にあらわれた、植物の仮称「草ハフッパ」、マップで植物の魅力を伝えます。チェックラ!
- 「野外観察園能力マップ」 学生が野外観察園を見学して気になったことや、気づいたこと、単行家である名古屋大学の教員などから聞いた植物の面白さなどを、野外観察園のマップに落とし込みました。会場配布します。








名古屋大学博物館 野外観察園
1963年、教養部生物学教室(現生物学部)として誕生。2001年度から名古屋大学博物館が管理・運営。およそ500種の手掛り植物が栽培されている。www.nuim.nagoya-u.ac.jp

名古屋芸術大学 芸術学部 デザイン領域 文芸ライティングコース
言葉と文章による表現のデザインを基盤に、伝えるための様々な文章表現のスキルを身につけ、文章のプロや作家を目指す。一人ひとりの個性を生かした作品を制作。www.nuadw.info

名古屋芸術大学 芸術教養領域 リベラルアーツコース
5つの教養(リテラシー)を、「芸術」を軸において深め、芸術の枠組みにとらわれない、自由で柔軟な発想をもった、自らを起点として社会に新しい価値を生み出す人材を育成。www.nua-h.jp

MAP

第Ⅰ期 名古屋芸術大学 西キャンパス



第Ⅱ期 名古屋大学博物館 野外観察園 (展示は博物館で実施)



フライヤー裏

コンテンツについて

LWの学生は、グループにわかれて、作品として5つのコンテンツを制作しました。LAの学生は、展覧会に必要なキャプション等のパネル類のほかに、観察園を紹介する地図と、パンフレット、コンテンツで紹介された植物の紹介カード等を制作しました。

制作したコンテンツは、名古屋芸術大学と名古屋大学博物館で2期にわけて展示発表を行いました。

各コンテンツの説明と情報は、展示の際に作成したキャプションを使用しています(制作／浦野 薫、腰本 彩葉、鈴木 美砂)。

展覧会

第Ⅰ期 名古屋芸術大学 Art & Design Center West(Lounge)

2024年6月28日(金)～7月3日(水)

第Ⅱ期 名古屋大学博物館(エントランスホール)

2024年7月19日(金)～8月9日(金)

くっく 草ッ食パッド

自然環境に興味を持ってもらい、保護の意識も高める機会を作りたいと思い企画しました。植物園のいろんな植物を使い料理テクニックを組み合わせ、新しい料理の体験を紹介します。食べられるという視点をもつことで、みなさんに植物の大切さや多様性を理解してもらいたいです。

鶉飼 樹

YANG CHUHAO

作品に使用された植物の名前

コーヒー

スイカズラ

ツルマメ

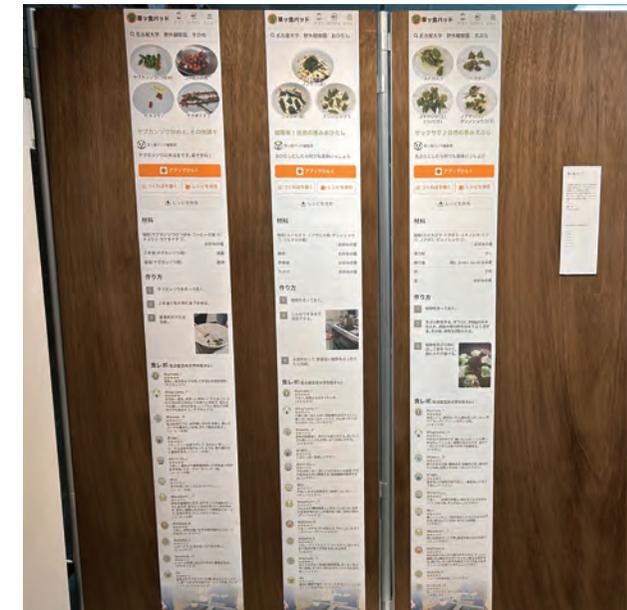
ノアザミ

ヒメコウゾ

ヤナギイチゴ

ヤブカンゾウ

ユキノシタ



第1期

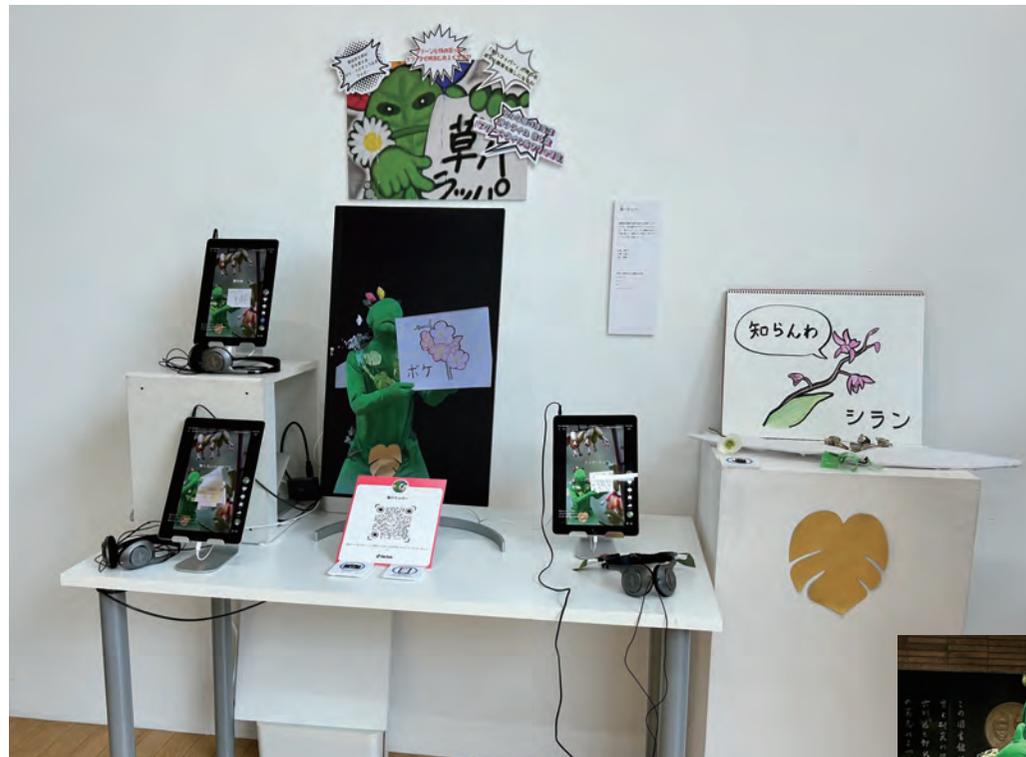
第2期

くさ 草ハラッパー

観察園の植物の特徴を紹介する動画コンテンツです。草の妖精であるオリジナルキャラクター、「草ハラッパー」と、そこで歌われるラップ曲を通して、植物について楽しく学んでもらいたいと思い企画しました。

生野 来実
小澤 大昂
志水 風香

作品に使用された植物の名前
シデコブシ
シラン
ボケ
ホンコンシュスラン



第Ⅰ期



第Ⅰ期



第Ⅱ期

しょくぶつ なづ しょくにん みち
植物名付け職人への道

植物を見たまま、感じたままに自由に名付けを楽しんでもらい、「名前」の面白さの観点に興味を持ってもらえる展示作品です。

参加型スペースで実際に名付け体験が可能で、他の人が考えた名前と見比べて楽しめます。

川口 瑛璃
増田 莉音
山田 千貴



第Ⅰ期



第Ⅰ期



第Ⅱ期

しんあい りんじん
森愛なる林人より

植物を「擬人化」したオリジナルキャラクターを
展示します。
新たな切り口で植物を見つめ、観察園に興味を
もってもらえると嬉しいです。

浅岡 美月
岩花 陸
勝 圭央
坂田 凧
杉山 智哉

作品に使用された植物の名前

ウツギ トベラ ラクウショウ
カリン ヒトツバタゴ レッドロビン
シャジクモ ブラシノキ
ジュズダマ ホルトノキ
セッコク メタセコイア



第II期



第I期

し さが
知ろう！探そう！
そうぞう
想像しよう！マップ

名古屋大学 野外観察園をより楽しんでもらうためのパンフレットを制作しました。コンセプトは、野外観察園を訪れたくなるような、見ているだけで行った気持ち、楽しめるパンフレットを作ることです。

実際に野外観察園へ行った名古屋芸術大学の学生の声をマップに反映させ、魅力や見てほしい植物を伝えています。植物のちょっとした情報なども加えることで、より植物や野外観察園を身近に感じてもらえるのではないのでしょうか？

地図には、紹介した植物の場所を記載しつつ、探すことも楽しみの一つだと考え、いくつかの植物は読み手に探してもらえそうな仕組みにしました。

青井 愛怜
柳野 真朋里
春田 紗英



名芸生のおすすめポイント

小さな秘密の小道

HTさん
松ぼっくりやどんぐりが落ちていた奥の小道。隙が道路なのに、「森の中にいる」という感じが強くて、自然を感じたい方にとってもおすすめです！

れ太郎さん
小道へ行くまでのワクワク感や木漏れ日がすごくきれいでトロ探してるときみたいな気分になれる！あと松ぼっくりが体育館の壁のところに並んでいるのがかわいい！



ダイオウシロウの
高の妖精かな？

イチオシ植物

なめくじさん
カリンの木は、つぎはぎ模様の綺麗な樹皮をしています。実や花がない時期でも素敵だなと思います。



クロタネソウ

おはるさん
クロタネソウは、花びらがぎざぎざで折り紙みたいで可愛かった。
ハナアロエは色が明るいオレンジ。茎がぐるぐるして可愛いと思ったら花が落ちた部分だったみたい。

ハナアロエ

魅力を伝えたい・・・

みたらしだんごさん
私は植物に対して関心がありませんでしたが、専門の方の解説を聞いて植物の生態を知ると、植物って面白いんだと思うようになりました。まだ植物に目を向けていない方にも魅力を知ってもらいたいです。



クレマチス

なめくじさん
何気なく見ている木や草花には、それぞれ名前があるし、種類があるし、仲間分けがあるんだな、生き物なんだなと、改めて認識させられたと感じています。

うらのさん
都会の中で幼い頃に秘密基地にしていた雑木林を感じる場所に出会えて少し嬉しかった。植物を見て、自分なりに面白くなって思うものを色んな人が持ってくれたら嬉しい。

おはるさん
歩くだけでも楽しい。気になった植物について観察園の先生に質問するとたくさんの知識が返ってきて最高。とても楽しかったので、この気持ちをとくさんの人にも感じてほしい、知ってほしいと思いました。



ヘビイチゴ ヤブヘビイチゴ



草思草愛

新たな発見が待っているかも
名芸生が名古屋大学博物館 野外観察園でみつけた魅力をマップにしました！

発行元：名古屋大学博物館×名古屋芸術大学（リベラルアーツコース・文芸ライティングコース）連携プロジェクト
編集：名古屋芸術大学 芸術学部 芸術教育領域リベラルアーツコース
発行：2024年6月28日

名芸生が見つけた、観察園の魅力！ 知ろう、探そう、想像しよう！

※掲載例：名古屋大学博物館 野外観察園、名古屋芸術大学学生

この3つの植物はどこにあるかな？探してみよう！



1でか!松ぼっくり

こんなに大きな松ぼっくりを見たことがありますか？手のひらよりも大きく持ち上げるとずっしりと重量を感じます。顔と並べて撮ると小顔効果にも…？大きな松ぼっくりが整列している不思議でかわいらしいスポットです。

2繁殖するために大炎上?

名前の通り、花がブラシにそっくりなブラシノキ。乾燥地で生まれたブラシノキは、極端な乾燥や山火事が起こると果実が開き、中の種子が風に飛んで散布されることで、繁殖します。山火事で何も無くなった土地で優占種になるためですが、なんと大胆ですね。

3写真を撮ると?

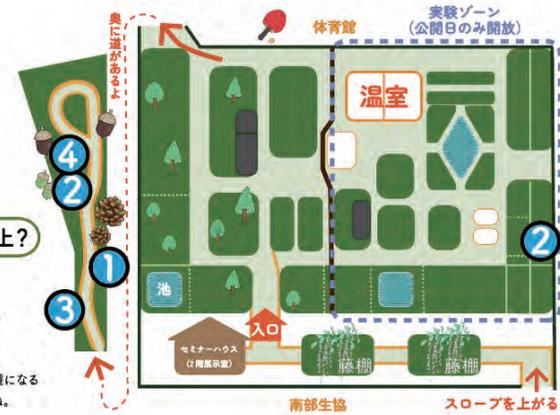
歩いているだけでも楽しい道ですが、ぜひカメラを構えてみてください。できれば広角で、真ん中に人を置くと…森の奥深くに進んでいくように見えませんか？ジブリ映画を彷彿とさせます。緑を背景に素敵な写真を撮っててください。

4落ち葉の絨毯

木々を通り抜けるとなんだか足元がやわらかくなってきます。落ち葉が重なり合って、絨毯のように、むしろ絨毯より柔らかくなっています。転ばないよう気をつけながら、どこが一番やわらかいか探してみてくださいね。



開園：月～金10時～16時
休園：土日祝
〒464-8601
愛知県名古屋千種区不老町 東山キャンパス
www.nagoya-u.ac.jp



展覧会の概要、経緯説明、観察園の紹介をまとめたパネル、キャプションを制作しました。

コンテンツでとりあげた植物については、カードに仕立てて、観察園が発行しているハンドブックとともに会場に設置しました。

浦野 薫
腰本 彩葉
鈴木 美砂



ハナイカダ

北海道西南部から九州の山の谷間に生える雌雄異株の落葉低木。春に葉の中央に緑色の小さな花を咲かせます。雌花は葉に一つずつ（たまに2〜3個）、雄花は葉に数個ずつつきます。葉の中央にあるのは、葉のわきから出た花の枝と葉脈がくっついたためです。よく見ると葉の基部から花までの葉脈は花から葉先までの葉脈よりも太くなっていることが分かります。

参照：名古屋大学博物館 野外観察園より





ふりかえり

名古屋大学博物館 宇治原妃美子(学芸員)

本連携プロジェクトでは、名古屋芸術大学(以降、名芸)の学生たちには最初に、名古屋大学博物館(以降、名大博)所属で植物分類学が専門の西田准教授と、観察園担当の吉野技師が、観察園内を案内し、植物についての解説を聞いてもらった。名芸の学生たちには、観察園と植物に関心をもってもらえた様子で、その後、積極的に本連携プロジェクトに取り組んでもらえたことを大変嬉しく思っている。

本連携プロジェクトのタイトル「草思草愛」は、瑞々しさと植物愛が感じられた。また、葉っぱの美しさを生かしたポスターデザインも大変好評であった。2箇所の展示空間においては、名芸側、名大博側、それぞれの空間の特徴を生かした美しい展示空間であった。

個別のコーナーについては、①「親愛なる林人より」のヒトツバタゴなどの植物を擬人化したキャラクターたちは、その完成度の高さに驚かされた。②「草ッ食パッド」では、スイカズラなどの植物の調理法を工夫し、ユニークなレシピと食レポを示してくれた。③「植物名付け職人への道」では、展示する植物を熟考してくれ、ブラシノキなどの標本づくりにも細部までこだわってくれた。④「草ハラッパー」のラップ音楽と動画は大変刺激的で、なおかつ、歌詞から植物愛が溢れていた。⑤「野外観察園魅力マップ」では可愛らしいマツボックリなどのイラストに導かれ、気軽に園内を散策したくなるマップとなった。

これらは、植物の「科学的」な情報だけを示すものではない、今まで名大博にはなかった表現・展示をしてくれた。名大博での展示期間中に館内の「ご感想ボード」には、「草ハラッパーの歌 面白いし、ためになりました」や、「植物・自然関連のブース全般にいいですね」などの感想が付箋に書いて貼ってあった。来館者に植物や観察園に、より興味をもってもらえたようである。

また本連携プロジェクトからは、名大博物館所属スタッフも刺激をうけ、展示表現をもっと豊かに柔らかくする意識がより芽生え、展示打ち合わせからも「草思草愛」の影響を感じられる。

今後の課題としては、ギャラリートークなどを開催して、名芸の学生と、名大博物館所属などの学生とで、植物や、展示などの意見交換の機会があれば、より良いプロジェクトとなると推測される。

最後に、本連携プロジェクトにご尽力いただいた、名芸の松村講師をはじめ、茶谷教授、酒井准教授、村田准教授には大変感謝申し上げます。

ふりかえり

名古屋芸術大学 文芸・ライティングコース 村田 仁(教員)

草思草愛(そうしそうあい)と呼んだから

環境に生きる表現を探ること。外の影響を受けない画面の中に浮かぶ言葉ではなく、博物館や、ギャラリーを通して、場が引用される。

大学の中にある研究施設としての野外観察園、一般公開もされていて、交流がある。そこを紹介するオリジナルコンテンツをつくることになった。

求められている不文律があり、依頼者も言葉にはできていないが求めていることを読み取り、提示できるか。そんな、だいそれたことまで可能か。そもそも、学内での他コース、大学畑とはいえ、学外の社会に対峙することも、協働すること自体も全て文芸・ライティングコースでは、はじめての学年であった。

そこを手厚く導いてくださった、皆様、ありがとうございました。

文芸・ライティングコースの学生のみなさんは、自身が考える魅力を持った表現を完成させることを、短い時間の中でまとめることはできたが、野外観察園自体の環境を活かすことまでは成せていないと私は見ている。もちろんそこまで持っていけなかった私の責任でもあるが、可能性は幾度かあった。次に活かそう！

植物は、草だけではない。「相(草)思 相(草)愛」と洒落た言葉遊びはそれで成立している。そこで草は満ちているから、他は何が所狭しとあるかをフィールドワークしていこう。名古屋大学博物館の野外観察園に、これらのコンテンツを人工的に？植えたのだから、(運んで来て、食べたりもしたし！)ここからなのかもしれない。芽を摘むなって？

ふりかえり

名古屋芸術大学 リベラルアーツコース

茶谷 薫・酒井健宏・松村淳子(教員)

名古屋大学・野外観察園、本学のデザイン領域 文芸・ライティングコースとのコラボレーション企画は、展覧会の成功のみならず、学生の成長という点でも非常に意義深いものでした。

芸術教養領域 リベラルアーツコースは、芸術をふくむ幅広い教養を身につけ、視野を広げ、グループワークにおけるマネジメント力を伸ばし、これからの社会で活躍する人を育成する場です。

このプロジェクトに参加した学生は、これまで様々な授業の一環で、領域内・学内の展覧会や、北名古屋市内の回想法センター、歴史民俗資料館(昭和日常博物館)の課題解決に繋がるイベントを実施してきました。

今回、連携する場や人々の範囲が格段に広がったことで、学生の視野が広がり、マネジメント・プロデュースする力も涵養されたと感じます。

例えば、園の方々の植物に対する想いの深さに感銘を受けたことで、学生の植物に対する見方も大きく変わりました。そして、この園の素晴らしさとともに、スタッフの方々の想いを多くの人に共有してほしい、という気持ちを強く持つようになりました。

また、文芸・ライティングコースの同世代の学生の想像力や創造力を目の当たりにし、その気持ちや作品を活かすためのマネジメントの在り方も実感できた様子です。これは芸術家や芸術作品の伸びやかさをどのように社会に繋いでいくか、という実践的な教育ともなりました。

私たち教員も2024年2月の打ち合わせの際に野外観察園を見学させていただいたのを皮切りに、4月、5月と学生とともに拝見し、暖くなるにつれて植物が生長し、虫なども次々と出てくる変化を実感し、生き物の世界の素晴らしさを再確認しました。6月の展覧会1期直前に展示用の植物を預かりに伺った際や、9月の最終打ち合わせの際は、野外観察園が鬱蒼とした森のようにになっている姿に目を啓かされました。

学生にも、私たち教員にも貴重な機会を与えてくださった名古屋大学博物館と野外観察園のみなさまに改めて深謝申し上げます。

名古屋芸術大学

芸術学部 デザイン領域 文芸・ライティングコース

「文芸実技Ⅲ-1」

准教授 村田 仁

芸術学部 芸術教養領域 リベラルアーツコース

「プロジェクト 3」

教授 茶谷 薫

准教授 酒井 健宏

講師 松村 淳子

名古屋大学博物館

准教授（大学院環境学研究科兼務） 西田 佐知子

学芸員 宇治原 妃美子

野外観察園技師 吉野 奈津子

受講生

文芸・ライティングコース

浅岡 美月、生野 来実、岩花 陸、鶴飼 樹

勝 圭央、川口 瑛璃、小澤 大昂、坂田 凪

志水 風香、杉山 智哉、増田 莉音、山田 千貴

YANG CHUHAO

（3年生）

リベラルアーツコース

青井 愛怜、田島 春佳、浦野 薫 （4年生）

柳野 真朋里、春田 紗英、片岡 祐介、腰本 彩葉

鈴木 美砂 （3年生）